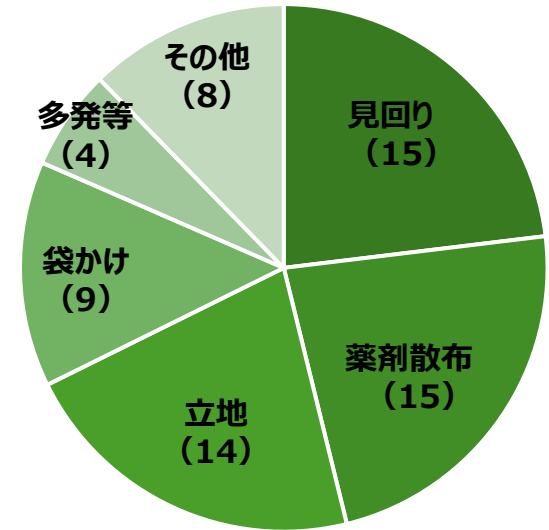


カメムシ類の被害要因と対策のポイントについて

- 都道府県から、令和 6 年産農業生産における果樹カメムシ類、斑点米カメムシ類の「被害を抑えられた事例」と「被害を抑えられなかった事例」を収集。収集事例の傾向を分析し、対策のポイントをとりまとめ。

01 果樹カメムシ類 被害の要因や防除における失敗点

- 「被害を抑えられなかったほ場」30事例で記載のあった「被害の要因や防除において失敗したと思った点」を整理
- 属性ごとに分類すると、
 - ①ほ場の見回り、②薬剤散布、③ほ場の立地条件、④袋かけ、⑤果樹カメムシ類の多発等、⑥その他に分類される



カッコ内は記載数

1 ほ場の見回り（記載：15件/30事例）

- ほ場の見回り頻度が少なかった
 - ✓ ほ場の見回り頻度が少なかったため、飛来に気付くのが遅かった
 - ✓ 気付いたときにはカメムシの大量飛来を招いており、薬剤散布を実施したが、後手の対応となってしまった

2 薬剤散布（記載：15件/30事例）

● 薬剤散布の回数不足（9件）

- ✓ 例年どおりの薬剤散布回数しか実施していなかった
- ✓ 例年プラス1, 2回程度の薬剤散布しか実施していなかった
- ✓ 開花前の防除ができず、無散布または回数が少なかったため、つぼみが加害されて落花し減収した（かんきつ）

● 適時・適切な防除が実施できなかった（6件）

- ✓ 防除暦どおりの防除で、カメムシ飛来に合わせた薬剤選択ができなかった
- ✓ 労力不足で適期に薬剤散布が実施できなかった
- ✓ 稲刈りと柿の収穫及び防除作業が競合し、臨時防除ができなかった
- ✓ 散布間隔が空いてしまった

3 ほ場の立地条件（記載：14件/30事例）

● 山林に隣接している園地のため、カメムシが大量に飛来した

- ✓ 山林に隣接しているため、大量に飛来した
- ✓ 山沿いなどは一部園で大量飛来があり、その園では薬剤散布をしたものの吸汁被害あり

4 袋かけ（記載：9件/30事例）

- 果実の肥大に伴い、袋の上から吸汁された（6件）
- 袋かけが遅れたため、すでに被害が生じていた（3件）

5 カメムシ類の多発等（記載：4件/30事例）

- カメムシ類の多発、長期化、連続飛来により、防除しきれなかった
 - ✓ 薬剤散布を定期的に行っていたが、飛来が多く防除効果が不十分となった
 - ✓ 連続した飛来のため、追加防除ができなかった
 - ✓ 飛来期間も経験ないほど長かった

6 その他（記載：8件/30事例）

- ✓ 薬剤散布回数を増やしたが、大事な時期に残効の短い薬剤を散布した
- ✓ 荒廃園と隣接した園では隣からの飛び込みなどで被害あり
- ✓ 果樹カメムシの種類が暖地のツヤアオカメムシで、例年と発生時期及び発生量が大幅に異なったため、対応が遅れた

02 果樹カメムシ類 対策のポイント

✓ ほ場の見回りの徹底と飛来直後の速やかな薬剤散布

都道府県の病虫害防除所が発表する発生予察情報などの病虫害の防除に関する情報を参考に、**ほ場の見回りをこまめに行い、飛来を確認した場合速やかに薬剤散布を実施**する

多発生の場合、慣行の薬剤散布回数では被害を抑えきれないおそれがある

(薬剤散布のポイント)

- ・ カメムシ類は、薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方に薬剤散布を行うと効果的
- ・ 残効性の長い薬剤の選択
- ・ 発生量が多いと予想される場合で、見回りが難しい場合には早めの薬剤散布

✓ 早めの袋かけの実施

多発生が認められる場合、なし、ぶどう等の有袋栽培の場合、**早めに袋かけを実施**する

ただし、袋をかけていても、果実が肥大して袋に密着すると被害をうける場合があるので、注意が必要

✓ 山林に隣接の園地

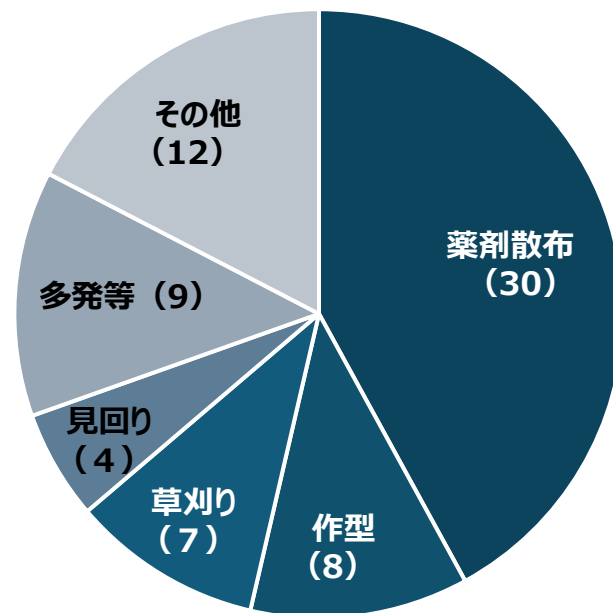
山林に隣接し、被害が多いほ場では、**多目的防災網等の設置を検討**する。

(多目的防災網のポイント)

- ・ 設置の際は、破れや隙間がないか念入りに点検
- ・ 網目の荒いネットは、網の間から侵入することから注意が必要
- ・ 春の気温が暖かい場合、カメムシ類の活動が例年より早まるおそれがあることから、展張を早めに実施

03 斑点米カメムシ類 被害の要因や防除における失敗点

- 「被害を抑えられなかったほ場」27事例で回答のあった「被害の要因や防除において失敗したと思った点」を整理
- 属性ごとにすると、
 - ①薬剤散布、②作型、③草刈り、
 - ④ほ場の見回り、⑤カメムシ類の多発等
 - ⑥その他に分類される



カッコ内は記載数

1 薬剤散布（記載：30件/27事例）

● 適期に薬剤散布が出来なかった（15件）

- ✓ 地域一斉防除を実施しているが、自身のほ場の防除適期とタイミングがずれていた
- ✓ 作付け規模の大規模化により適期に薬剤散布を実施できなかった
- ✓ 無人ヘリ予定日（7/10）より出穂が早く、予定日は降雨のため数日順延となった
- ✓ イネカメムシによる被害がない地域であったため、従来の防除時期（穂ぞろい期）に防除を実施した

- **防除への準備が不足していた（7件）**

- ✓ 自身で防除する準備を行っていなかったため、臨時防除が実施できなかった

- **その他（7件）**

- ✓ 適切な方法での薬剤散布ができなかった（畦畔から防除したため、ほ場内部の防除が出来なかった）
- ✓ 薬剤散布回数の不足（3件）
- ✓ 薬剤散布の未実施（4件）

2 作型（回答：8件/27事例）

- **周囲より作期が異なるため、カメムシ類の飛来が集中した**

- ✓ 周囲より出穂期が早いため、被害が多く生じたおそれがある
- ✓ 周囲より出穂期が遅いため、周辺水稻の刈取後にカメムシが集中飛来し、被害が多く生じたおそれがある
- ✓ 地域的に早生品種が多く、中生品種は少なかったことから、被害が多かったおそれがある

3 草刈り（回答：7件/27事例）

- **畦畔の草刈りを行わなかった、又は十分でなかった**

- ✓ 出穂前に、隣接する休耕地の草刈りを行い、クモヘリカメムシをほ場に追い込んでしまった

4 ほ場の見回り（回答：7件/27事例）

- **ほ場の見回り頻度が少なかった**

- ✓ 酷暑のため早朝でないと確認できないので見逃す。圃場巡回が不十分であったため、イネカメムシの発生と防除が遅れた
- ✓ ほ場の見回りを怠ったため、イネカメムシの発生に気付かず、収穫後に不稔に気付いた

5 斑点米カメムシ類の多発等（回答：9件/27事例）

- **斑点米カメムシ類、雑草の多発**

- ✓ カメムシの発生源となる水田雑草（ノビエ、ホタルイ）が、収穫期まで発生した（特に、ノビエは水田全面に発生）
- ✓ 水田内の雑草（ノビエ、ホタルイ）が多い
- ✓ カメムシが水田内で収穫期まで多発していた

6 その他（回答：12件/27事例）

- ✓ 高温の影響により割れ粳が多かったことから、斑点米の被害を増やす要因となった
- ✓ イネカメムシの発生に気付かなかった、気付いたが不稔を起こすとは思わなかった 等

04 斑点米カメムシ類 栽培や防除において上手くいったと思った点

- 「被害を抑えられたほ場」（37事例）における栽培や防除において上手くいったと思った点が多かった回答は次のとおり。

1 適期に薬剤散布ができた（回答：25件/37事例）

- ✓ 出穂期に薬剤散布を実施することで、不稔を防止することができた
- ✓ 適期（出穂期、出穂期の7～10日後）に薬剤散布を実施することで、減収被害と斑点米被害を防止することができた。

2 地域一斉で草刈りを実施した（回答：12件/37事例）

- ✓ 周囲と畦畔の草刈りを一斉に実施したことが被害の抑制につながった

3 ドローンや防除組織を活用することにより、防除が上手くいった（回答：12件/37事例）

- ✓ 地域一斉防除に加え、薬剤散布をドローンで実施し、散布回数を増やし、被害を防ぐことができた
- ✓ 薬剤散布を業者に委託することにより、散布回数を増やし、被害を防ぐことができた

- その他の特筆する対応

作型の工夫

- ✓ 品種を統一し出穂時期をそろえたことで、適期に一斉防除が可能となった
- ✓ 出穂期を周辺ほ場と大差なくすることができ、斑点米カメムシ類の集中飛来を防げた
- ✓ 中晩生の品種に変えることにより、イネカメムシの集中飛来を防いだ

※有機の事例も1事例あり。

05 斑点米カメムシ類 対策のポイント

✓ ほ場の見回りの徹底と適期の薬剤散布

都道府県の病害虫防除所が発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報を参考に、**ほ場の見回りをこまめに行い、発生量や生育状況に合わせた適期の薬剤散布を実施**する

✓ 畦畔等の草刈り

出穂 2 週間前までに、**畦畔等の草刈りを実施**する

地域一斉で草刈りを実施することで防除がうまくいったという声がある

✓ 臨機防除への備え

臨機防除に備えて、**薬剤の準備や防除業者の検討**を実施し、いつでも防除ができるよう体制を整える

✓ イネカメムシ多発地域

- 不稔防止のための**出穂期の薬剤散布を実施**し、その後、斑点米防止のために**追加で薬剤散布**を実施する
- 地域の中で**周年より出穂が早いほ場や極端に遅いほ場は、被害が生じている傾向**があるため、そのようなほ場は**作型・品種の変更を検討**する